

社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

<p>代表者氏名 (ふりがな)</p>	<p>大平 英樹 (おおひら ひでき)</p>	<p>所属</p>	<p>名古屋大学大学院環境学研究科社会環境学専攻心理学講座</p>
<p>研究集会等名称</p>	<p>社団法人日本心理学会精神神経内分泌免疫学研究会</p>		
<p>成果概要</p>	<p>1) 参加人数(会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 46名(うち認定心理士 5名) 非会員 39名(うち認定心理士 0名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)</p> <p>【研究集会】</p> <p>目的：精神神経内分泌免疫学に関する最新の知見の共有、研究者間の交流を深めることで共同研究を行う機会を促進することを目的とする。また、若手研究者に積極的に研究発表の機会を与えることで若手研究者の育成に努める。</p> <p>成果：平成22年7月10日に第12回研究集会を文京学院大学にて、平成23年1月8日に徳島大学にて第13回研究集会を開催した(別紙プログラム参照)。第12回研究集会では、5題の研究発表、第13回研究集会では1つの特別講演とミニレクチャー、3つの研究発表が行われ、精神神経内分泌免疫学における最新の知見についての情報交換と活発な議論が交わされた。また、本研究領域における現状と問題点について議論することで今後の問題点が明確化された。</p> <p>将来計画：今後は、第14回研究集会を企画することで、さらなる情報、研究手法・技術の共有化、研究者間の連携を強めることを目指す。</p> <p>【日本心理学会第74回大会シンポジウム】</p> <p>目的：心理学領域における精神神経内分泌免疫学の普及と、基礎研究と応用研究の間の情報や技術の共有化を目的とした。</p> <p>成果：日本心理学会第74回大会において『精神神経内分泌免疫学研究の応用—臨床・ストレス予防への利用—』と題したシンポジウムを開催した。シンポジウムにおいては、領域を代表する3名の若手研究者の講演に対して、応用的な視座より長く研究を行ってきた山田富美雄先生、臨床心理学の専門家である佐藤健二先生に指定討論をいただき、精神神経内分泌免疫学の基礎的知見をどのように実社会へと還元していくかについて議論を行った。</p> <p>将来計画：日本心理学会第74回大会において行ったシンポジウムを基盤に、日本心理学会第75回大会において諸領域を概観するワークショップを開催予定である。</p>		